

1 自己評価及び外部評価結果 (第1ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700223		
法人名	一期一会福祉会		
事業所名	グループホーム岩倉一期一会荘 (第1ユニット)		
所在地	愛知県岩倉市北島町七反田35番地		
自己評価作成日	平成21年12月20日	評価結果市町村受理日	平成22年 4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の機会を多く持っている。「地域との交流を大切にしたい」との思いから、地元のお祭り、市民文化祭等へ参加している。また、1ヶ月に一度昼食において外食ツアーを企画しており、外へ出ることの喜びを感じていただいている。畑もあり、園芸や野菜の栽培を楽しんでいただける環境があり、育てた野菜の収穫を利用者様と行い、収穫した野菜を使って食事を作っています。いつでも、ご利用様が散歩に行くことができ多くの方の日課となっている。毎日の生活において落ち着いた時間が流れており、家庭的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族アンケートの回答率が高く、18人中16人から回答があった。それぞれの家族がコメントで感謝の言葉を述べ、職員に対しては「明るい、優しい、親切」との記述が多かった。職員ヒアリングにおいては、「荘長が業務・業務外にかかわらず、いつでも職員と一緒にになる機会を作って話しを聞いてくれる」との信頼関係を示すコメントが かれた。利用者の、「職員は何でも聞いてくれる良い人ばかり」との言葉から、理念である「自分らしく暮らしていただく一期一会の家」の思いが、荘長、職員、利用者、家族間に浸透していることも分かる。個別対応が増え、車イス、食事介助の利用者も多い中で、毎月外食ツアーを企画し、家族会では利用者と一緒にレクリエーションを行うなど、様々な取り組みを通して思い出作りを行っている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2374700223&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 1月25日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく暮らしていただく一期一会の家」を理念として、管理者と主任と職員が日頃から話し合いを行っている。そして、入居者様の事を考え、実現している。	「自分らしく暮らしていただく一期一会の家」を理念として管理者・職員はサービス内容が理念の実践になっているかを評価し、常に高い目標を目指し努力している。	理念の周知は徹底しているため、次のステップとして理念をホームの目標として具体化することが望ましい。さらに、個人の目標にまで視野に入れて、各職員が真に理念を実践できる取り組みに期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、市の文化祭にもグループホームとして作品の展示を行い、地域の一員であることを知っていただくよう取り組んでいる。また、近所の方などから季節の花をいただいたりしている。	市の文化祭をはじめ、地域の行事に積極的に参加している。幼稚園児が来荘し、遊戯を披露して触れ合いを楽しむことが毎年恒例になっている。又、近くの子供達が遊びに来て、紙芝居をしたり鶴を折ったりして遊んでいく。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岩倉市の認知症サポーター育成事業があり積極的に協力している。見学希望者の訪問も積極的に受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議にて前回の議事録を配布し、議題に挙げた検討課題の進行状況、結果等報告している。常にサービスの向上に活かすことが出来るよう努めており、ご家族への広報誌の紙面構成にも意見を反映している。	包括センター・民生委員・地区総代・利用者・利用者家族・ホーム職員(荘長・管理者・職員2名)を主要メンバーとして開催し、活動報告を中心に参加者との意見交換を行っている。外部評価時にはその結果報告を行い、以後の取組み姿勢を説明しサービスの向上に活かしている。	会議をマンネリ化させないためにも、知見者として提携医の医師、学区の小・中学校の先生、ボランティアグループのリーダー等をその時々課題に合わせ、構成メンバーに加え、さらに幅広い方々の意見の収集を期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岩倉市が育成している、認知症サポーターを介護相談員として受け入れさせていただいており、意見の交換等文章で残しており、岩倉市の担当者も把握している。	荘長が市のキャラバンメイトとしてサポーター養成に協力する中で行政の窓口とも連携が取れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のマニュアルの設置や、会議の議題として取り上げ、常に身体拘束がないよう注意を促し、勉強会を開き防止に努めている。	身体拘束防止のマニュアルを基本に介護の現場やミーティングで勉強会を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。「基本的には鍵はかけない」考えで拘束する事の弊害を理解した職員が見守りを徹底し、出て行く利用者がいれば付き添いを行い適切なケアを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止のマニュアルの設置や、会議の議題として実際の事例を取り上げるなどして、常に虐待がないよう注意を促し、勉強会を開き防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされている方はいないが、必要があれば対応できる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いて話し合える場所と時間を提供し、説明・契約を行っている。入居後も随時質問に対して、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	リビングにご利用者様の意見を受ける意見箱を設置し、意見があった際は、速やかに実行できるよう努めている。また、介護相談員が職員を過ぎずにご利用者様の苦情を聞ける環境が出来ておりそれに対応している。	家族アンケートに、「毎月頂くお便りの中に職員さんからの手紙が入っていますが利用者の様子や対応が書かれ、又、些細な事でも電話があり…」等と、感謝の気持ちが込められたコメントが数多く寄せられており、家族との関係は良好である。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の採用等に関しても現場の意見を聞いて行っている。日頃から管理者との話し合いが行えている。	荘長は職員の意見を尊重してホームの運営に反映させようとの思いが強い。ミーティングにはパートも含め全員参加させている。又、業務以外でも職員と一緒にいる機会を多く作っている。(サッカー・認知症サポート研修会・マラソン大会・飲み付き合い等)	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、半年ごとに目標シートを作成し、達成度を確認しながら助言し、向上心を持ち続けることが出来るよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修期間中は、各業務のマニュアルを配布し、指導者にも研修マニュアルを配布して、計画的に育成している。また、年に2回人事考課面接を行い職員と共に課題を考え取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先での交流をもとに、相互の問題点を話し合う日程や時間を設け、ネットワーク作りに取り組んでいる。また、行事の際など施設に来る職員との意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の施設への見学を促し、ご利用者様との交流や職員との顔合わせを行っている。また、個別で話し合う場を提供し、不安の無いよう質疑応答に努めている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日程・時間を設定し、施設内外の情報や方針について話し合う場を提供している。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接施設との協力体制が確保されていることを伝え、サービス内容の説明も行っている。必要に応じ、サービス担当者にも同席してもらい、より詳細な内容を提供できるよう努めている。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者と向き合う姿勢をとっている。共感し共に取り組む事で、日々の生活を支えあう関係を築いている。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員のみで判断せず、ご家族様への連絡・相談・報告も怠らないよう、協力を得られる体制で取り組んでいる。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出ツアー発案の際、個別に本人の馴染みのある場所への企画をしている。	会話の中に馴染みの人や、場所の話を入れて回想してもらっている。気軽に馴染みの方々が訪問出来る様に、玄関先に草花を置く等家庭的な雰囲気作りに努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団・個別レクリエーションを行うことにより、他者との交流を図る。日常生活面では、食事づくり・洗濯・掃除等をともに行うことが出来るよう配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一期一会のご縁を頂いた方々なので、必要な場合には対処している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を最優先している。出来る限りご利用者様が自由に活動できるような職員体制となっている。	入居前に家族から利用者の生活歴を教えてもらい、入居後は日常接していく中で利用者・家族の思いを傾聴しながら希望・要望を、申し送り・連絡ノートに記録している。	毎日の生活の場面で新しく把握した利用者の情報を生活歴の中に追加して記録し、職員全員で共有していく事を望みたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人ファイルに情報を収集し、過去の情報を見やすくまとめている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常状況観察表を中心として、情報把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族と相談し、介護計画を作成している。また、入居者の希望も取り入れている。	日常接していく中で、利用者・家族の思いを傾聴しながら希望・要望を把握し、計画作成担当者がケアプランを作成している。	「個別ケア」の実践は、把握した利用者の思いや意向をいかに実現させるかということでもある。ケアプランの様式の冒頭に本人や家族の意向を明確に記載できるように、様式の検討を望みたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常状況観察表と共に介護計画書を常に見合わせる状態にしている。気づきや工夫においては、申し送り記入欄や連絡ノートにて情報を共有出来ており、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接施設があることの利点を生かし、様々な状況に対応している。ご家族と一緒に泊まって頂ける環境がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の望まれるような慰問を受けたり、学校との文化交流を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医療関係者の理解を得ており、診察、往診を受けることができる。	ホーム提携医(内科・外科)を利用者のほぼ全員がかかりつけ医として、週1回の往診をうけている。専門医(眼科・歯科・整形・皮膚科)の通院付き添いは利用者と家族のコミュニケーションを深める事も兼ね、家族にお願いしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護職員を置くと共に、隣接施設の看護職員、嘱託医にいつでも相談できる体制をとっており、ご利用者様に合わせた看護が行えることが出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・グループホーム・病院で情報を共有し、対応している。介護計画も状況に合わせて変更している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と職員が話し合い同じ思いを持って、終末期の対応を行えている。介護計画も状況に合わせて変更している。また、かかりつけ医、隣接施設の看護師との情報交換ができています。その上で、変化に備えた準備を行っている。	「一度ご縁を頂いた方々を最後まで見ていく」と言う考え方については、家族も安心して受け止めている。家族・主治医・看護師・職員と話し合いを重ねその時に応じた支援に取り組めるようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを備え、どの職員でも行えるようにしている。また、会議で取り上げ、実践をふまえて行い、見直しや復習を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接施設とともに防災委員会を設置している。防災訓練を定期的に行い、また防災についての打ち合わせも行っている。	併設施設と共に防災委員会を設けている。防災訓練を定期的に行い、防災検討会議も行っている。又、岩倉市消防本部の協力の下に防災講習会を開催し、「煙体験・防災映画」により防災への意識を高めている。	北海道の惨事の件もあるので、併設施設との防災ネットが真に作動するかの確認の為に、夜勤体制の下での連携訓練やテストを実施していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様への言葉掛けについて職員同士がお互い意識している。また、会議で取り上げ事例をふまえて研修を行っている。	職員はゆったりした態度で利用者一人ひとりに接し、一人ひとりの意向を尊重した言葉遣い・声かけを行っている。回想法を取り入れ個人の尊厳を保持・維持出来る様に働きかけている。又個人情報については、掲示物・ホーム便りなどへの使用についても同意を得ている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表わせるような、言葉かけを職員が心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に自分の役割や個性の表現の自由を配慮し、1人1人が満足する暮らしを目標として支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様のなじみの床屋・美容院へ行けるよう支援している。衣類についても、本人が選ぶことができる店に行けるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストに応じて献立を作成している。ご利用者様と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は同じ食卓について同じ食事を摂っており、会話も弾み和やかな食事風景が見られた。食後は職員に混じって片付けをする利用者の姿も見られた。また、利用者の希望・嗜好を食事に反映させる為の食事リクエストも行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全員記録しており、栄養バランスについては、隣接施設の管理栄養士が確認と助言をしている。ご利用者様1人1人に合わせた摂取量を会議等で検討、見直しをおこない、支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立支援をしながら、口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心・プライバシーに配慮し、安心できるような言葉掛けで対応している。カンファレンスで、職員から意見を聞き、支援を行っている。	排泄パターンの把握、体調の申し送り、利用者のしぐさ等に配慮しながら、さり気ない声かけやトイレ誘導を行っている。失禁の多い場合には、排泄パターンの見直しを行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに、医師と相談をしながら、センナ茶・下剤・浣腸まで取り扱い、予防に努めている。食材の工夫や、体操も予防として取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。また、季節ごとに菖蒲湯・ゆず湯などを行い入浴からも季節を感じていただいている。	利用者の希望を優先し、週に2～3回は入浴してもらう支援をしている。入浴を嫌う利用者に対しても無理強いせず、複数の職員で連携して声かけを行い、話題を替えながら入りたい気分になるように仕向けている。誰かとウマが合い入りたい気持ちになった時には、すかさず入ってもらう。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の記録から、生活習慣の把握に努め、その時々々に状況に応じて生活リズムを崩さぬよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容・用量・副作用を、処方箋をもとにまとめ、分かりやすくすることで、職員が把握できている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の馴染みある教室への参加。ホーム内でのレクリエーション参加での楽しみや、頼りにされているという役割分担による達成感を支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が付き添うことでの日中の外出を自由に行えている。また、ご家族に対して、ご利用者様の希望などを伝え、行きたいところに行けるよう支援している。	玄関には鍵が掛かっていないため、利用者が併設施設の広い中庭に出て行く際は必ず職員が付き添う支援を行っている。又月1回は全員参加の外食ツアーを行っている。企画担当者は予め下見をして車イス利用の確認もしている。家族アンケートでも、外出支援への満足度は高かった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃からご利用者様に管理していただけるよう支援している。外出先での支払いを本人にしてもらい、金銭管理の習慣継続を促している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙のやり取りを行っている。プライバシーに配慮し、ご家族様とのコミュニケーションを大切にしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多く利用した造りの家で、家庭的な雰囲気である。	ホームの建物自体に木が多く取り入れてあり、家具や調度品を含めて全体的に自然な色彩でまとめられ、落ち着いた雰囲気の漂うように工夫されている。共用空間には利用者が集い、互いに世話を焼き合う場面もみられ、自然で和やかな生活風景が展開されていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和みの空間を作ることによってリビングとは違う雰囲気の中で落ち着いて過ごすことができる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に在宅で使われていた家具や道具を持ち込む事で、居心地よく過ごせる工夫ができています。	使い慣れた家具の持ち込まれた部屋、馴染みの装飾品・家族の写真が飾られた部屋等、一人ひとりの個性溢れる居室は利用者の生活歴そのものである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりもご利用者様の動きに合わせて設置している。2階への移動も車椅子も利用できるエレベーターを設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果 (第2ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700223		
法人名	一期一会福祉会		
事業所名	グループホーム岩倉一期一会荘 (第2ユニット)		
所在地	愛知県岩倉市北島町七反田35番地		
自己評価作成日	平成21年12月20日	評価結果市町村受理日	平成22年 4月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2374700223&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の機会を多く持っている。「地域との交流を大切にしたい」との思いから、地元のお祭り、市民文化祭等へ参加している。また、1ヶ月に一度昼食において外食ツアーを企画しており、外へ出ることの喜びを感じていただいている。畑もあり、園芸や野菜の栽培を楽しんでいただける環境があり、育てた野菜の収穫を利用者様と行き、収穫した野菜を使って食事を作っています。いつでも、ご利用者様が散歩に行くことができ多くの方の日課となっている。毎日の生活において落ち着いた時間が流れており、家庭的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく暮らしていただく一期一会の家」を理念として、管理者と主任と職員が日頃から話し合いを行っている。そして、入居者様の事を考え、実現している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、市の文化祭にもグループホームとして作品の展示を行うことで、地域の一員であることを知っていただくよう取り組んでいる。また、近所の方などから季節の花をいただいたりしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岩倉市の認知症サポーター育成事業があり積極的に協力している。見学希望者の訪問も積極的に受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議にて前回の議事録を配布し、議題に挙げた検討課題の進行状況・結果等報告している。常にサービスの向上に活かすことが出来るよう努めており、ご家族への広報誌の紙面構成にも意見を反映している。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岩倉市が育成している、認知症サポーターを介護相談員として受け入れさせていただいており、意見の交換等文章で残しており、岩倉市の担当者も把握している。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のマニュアルの設置や、会議の議題として取り上げ、常に身体拘束がないよう注意を促し、勉強会を開き防止に努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止のマニュアルの設置や、会議の議題として実際の事例を取り上げるなどして、常に虐待がないよう注意を促し、勉強会を開き防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされている方はいないが、必要があれば対応できる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いて話し合える場所と時間を提供し、説明・契約を行っている。入居後も随時質問に対して、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	リビングにご利用者様の意見を受ける意見箱を設置し、意見があった際は、速やかに実行できるよう努めている。また、介護相談員が職員を通さずにご利用者様の苦情を聞ける環境が出来ておりそれに対応している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の採用等に関しても現場の意見を聞いて行っている。日頃から管理者との話し合いが行えている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、半年ごとに目標シートを作成し、達成度を確認しながら助言し、向上心を持ち続けることが出来るよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修期間中は、各業務のマニュアルを配布し、指導者にも研修マニュアルを配布して、計画的に育成している。また、年に2回人事考課面接を行い職員と共に課題を考え取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先での交流をもとに、相互の問題点を話し合う日程や時間を設け、ネットワーク作りに取り組んでいる。また、行事の際など施設に来る職員との意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の施設への見学を促し、ご利用者様との交流や職員との顔合わせを行っている。また、個別で話し合う場を提供し、不安の無いよう質疑応答に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日程・時間を設定し、施設内外の情報や方針について話し合う場を提供している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接施設との協力体制が確保されていることを伝え、サービス内容の説明も行っている。必要に応じ、サービス担当者にも同席してもらい、より詳細な内容を提供できるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者と向き合う姿勢をとっている。共感し共に取り組む事で、日々の生活を支えあう関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員のみで判断せず、ご家族様への連絡・相談・報告も怠らないよう、協力を得られる体制で取り組んでいる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出ツアー発案の際、個別に本人の馴染みのある場所への企画をしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団・個別レクリエーションを行うことにより、他者との交流を図る。日常生活面では、食事づくり・洗濯・掃除等をともに行うことが出来るよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一期一会のご縁を頂いた方々なので、必要な場合には対処している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を最優先している。出来る限りご利用様が自由に活動できるような職員体制となっている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人ファイルに情報を収集し、過去の情報を見やすくまとめている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常状況観察表を中心として、情報把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族と相談し、介護計画を作成している。また、入居者の希望も取り入れている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常状況観察表と共に介護計画書を常に見合わせる状態にしている。気づきや工夫においては、申し送り記入欄や連絡ノートにて情報を共有出来ており、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接施設があることの利点を生かし、様々な状況に対応している。ご家族と一緒に泊まって頂ける環境がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の望まれるような慰問を受けたり、学校との文化交流を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医療関係者の理解を得ており、診察、往診を受けることができる。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護職員を置くと共に、隣接施設の看護職員、嘱託医にいつでも相談できる体制をとっており、ご利用者様に合わせた看護が行えることが出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・グループホーム・病院で情報を共有し、対応している。介護計画も状況に合わせて変更している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と職員が話し合い同じ思いを持って、終末期の対応を行えている。介護計画も状況に合わせて変更している。また、かかりつけ医、隣接施設の看護師との情報交換ができています。その上で、変化に備えた準備を行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを備え、どの職員でも行えるようにしている。また、会議で取り上げ、実践をふまえて行い、見直しや復習を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接施設とともに防災委員会を設置している。防災訓練を定期的に行い、また防災についての打ち合わせも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様への言葉掛けについて職員同士がお互い意識している。また、会議で取り上げ事例をふまえて研修を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるような、言葉かけを職員が心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に自分の役割や個性の表現の自由を配慮し、1人1人が満足する暮らしを目標として支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様のなじみの床屋・美容院へ行けるよう支援している。衣類についても、本人が選ぶことができる店に行けるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストに応じて献立を作成している。ご利用者様と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全員記録しており、栄養バランスについては、隣接施設の管理栄養士が確認と助言をしている。ご利用者様1人1人に合わせた摂取量を会議等で検討、見直しをおこない、支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立支援をしながら、口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心・プライバシーに配慮し、安心できるような言葉掛けで対応している。カンファレンスで、職員から意見を聞き、支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに、医師と相談をしながら、センナ茶・下剤・浣腸まで取り扱い、予防に努めている。食材の工夫や、体操も予防として取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。また、季節ごとに菖蒲湯・ゆず湯などを行い入浴からも季節を感じていただいている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の記録から、生活習慣の把握に努め、その時々状況に応じて生活リズムを崩さぬよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容・用量・副作用を、処方箋をもとにまとめ、分かりやすくすることで、職員が把握できている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の馴染みある教室への参加。ホーム内でのレクリエーション参加での楽しみや、頼りにされているという役割分担による達成感を支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が付き添うことでの日中の外出を自由に行っている。また、ご家族に対して、ご利用者様の希望などを伝え、行きたいところに行けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃からご利用者に管理していただけるよう支援している。外出先での支払いを本人にしてもらい、金銭管理の習慣継続を促している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙のやり取りを行っている。プライバシーに配慮し、ご家族様とのコミュニケーションを大切にしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多く利用した造りの家で、家庭的な雰囲気である。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やソファを置き和みの空間を作ることによって、リビングとは違う雰囲気の中で落ち着いて過ごすことができる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に在宅で使われていた家具や道具を持ち込む事で、居心地よく過ごせる工夫ができています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりもご利用者様の動きに合わせて設置している。平屋建ての為、共有スペースが広く利用者様が自由に動く事が出来る。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケアプランの様式の冒頭に本人や家族の意向の記載が無い。	ケアプランを活用し、本人や家族の意向を職員全員で共有・把握する。	ケアプランを本人・家族の意向を記載する書式で作成する。	6ヶ月
2	4	運営推進会議の参加者が固定化している。	会議の内容に合わせて固定の委員以外に、色々な方に参加して頂き、幅広い方々の意見を聞ける会議とする。	介護相談員、行政の方等に参加のお願いをする。	6ヶ月
3	35	他施設の火災をうけて再度防災についての意識を高める。	非常災害時に適切な対応が出来るようになる。また、日頃から予防に取り組む。	様々な想定の下での訓練を行う。 会議等で施設内の危険個所、火災発生が考えられる所などを職員全員で話し合い、検討する。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。